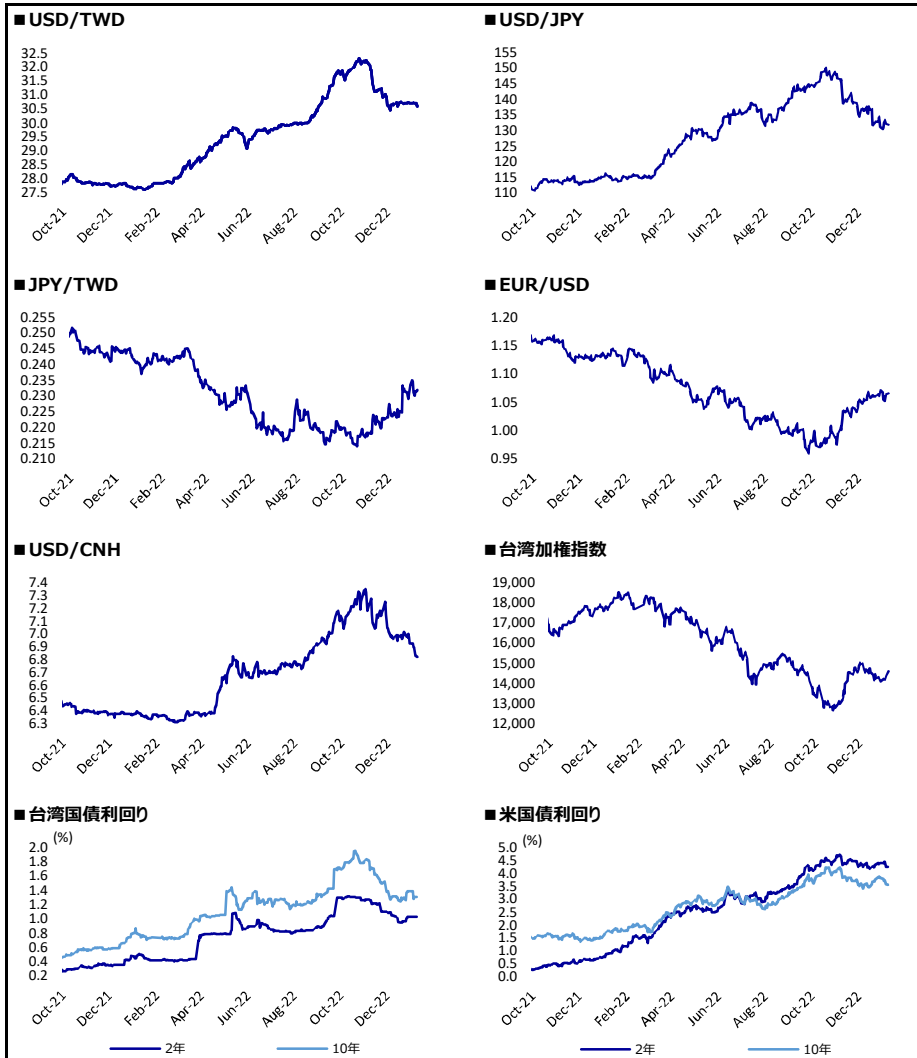


## 市場動向



## 先週の市場動向

■ USD/TWD  
先週のドル/台湾ドルはレンジで推移。週初1/3は30.740でオープン後、30.761まで上昇したものの、30.7台半ばでは輸出企業のドル売りが入り、30.6台後半まで下落。1/4は特段材料のない中、30.7台前半の狭いレンジで推移し、1/5も同様に方向感なく推移した。1/6はADP雇用統計等、前日の米経済指標を受けてFRBがタカ派になると受け止められ米株が下落したことから、台湾株安台湾ドル安の流れに。30.75付近まで上昇したものの、米雇用統計の発表を控えており、次第に台湾ドルは買い戻された。1/7は米雇用統計で平均時給の伸び率が予想より下回ったことからFRBの利上げ速度が減速すると見込まれ、一時30.520まで下落。しかし、土曜営業日で極めて薄い商いの中、直近の取引レンジヘドルは買い戻された。最終的に先週比ほぼ変わらずの30.695で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は66.1億台湾ドル。

■ USD/JPY  
先週のドル/円は上昇。週初1/2は131.10でオープン後、各国休場の中、130円台後半でじり安となった。1/3は東京休場の中、日銀の早期金融緩和と政策修正への期待感から円買い相場となり2022年6月ぶりに129円台を付け、一時129.51円まで下落した。しかし、その後は米金利の上昇を受けて131円台まで戻した。1/4は米金利が低下すると130円台を割り込む場面もみられたが、米11月JOLT求人数が市場予想を上回ったことを受け、ドル買い優勢となり、132円台後半まで上昇。1/5は12月ADP雇用統計が予想を大きく上回り、続いて発表された新規失業保険申請件数も予想を下回ったことで、FRBがよりタカ派になるとの思惑から米金利が上昇する中、ドル買いが優勢に。一時134円台をつけたものの、ブラッド・セントリース連銀総裁が政策金利は十分に抑制的な水準に近いと発言すると、米金利上昇の一服とともに133円付近まで下落。1/6は「日銀は長短金利操作（YCC）の再修正急がず」と一部で報道され、一時134.78まで上昇。しかし、米雇用統計では平均時給伸び率が前月から縮小、さらにISM非製造業景況感指数が市場予想以上に低下したことからFRBのタカ派期待が後退し、132円台まで下落。最終的に先週比0.7%ドル高円安の132.09で先週の取引を終了。

## 今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.400-30.750  
米雇用統計を受けて、一旦、FRBの利上げ速度が落ち着くとの見方が強まっている。また春節を前に輸出企業の台湾ドル買い需要もあるため、上値は重いと見込む。

■ USD/JPY 予想レンジ：128.00-135.00  
今週は米12月CPIの発表を控えている。結果次第で大きくぶれる可能性があるため、大きな値幅の値動きとなることに警戒したい。

## 今週の予定

|            |                   |
|------------|-------------------|
| 1/9 (MON)  | 日本休場              |
| 1/10 (TUE) |                   |
| 1/11 (WED) |                   |
| 1/12 (THU) | 米12月CPI、日本11月経常収支 |
| 1/13 (FRI) | 米1月ミシガン大消費者信頼感    |

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。